



# 光村の「国語」

移行期の指導のために

光村図書出版株式会社

# 古典を 楽しむ

## 言語文化を享受し、継承・発展させるということ

新しい学習指導要領では、小学校に初めて「古典」という言葉が入りました。

それは、「我が国の言語文化を享受し、継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を小学校段階から重視」（教育課程部会 国語専門部会「国語科の現状と課題、改善の方向性[検討素案]」より）しようという考えの表れです。

日本文化としてこれまで大切に継承されてきた古典は、日本語の美しい表現やリズムを身につけるうえでも音読や暗唱にふさわしいものであり、情緒力を身につけ、豊かな人間性を形成するうえでも重要なものです。そういった文化を生涯楽しめる素地を作る小学校では、古典とどう「出会うか」が重要となるでしょう。

その「出会い」が楽しく、親しみのもてる場であるように、光村では教材を準備しています。

### 声に出す …… 短歌・俳句 文語詩 昔話 民謡 故事成語

日本語の美しい表現や独特のリズムを、声に出して楽しみましょう。何度も繰り返し声にすることで、表現やリズムが丸ごと体にしみこんでいきます。

### 作る …… かるた 俳句

日本の伝統文化である「かるた」遊びを継承する活動の中で、言葉のリズムを楽しみます。

また、五・七・五の十七音という短さの中に表現されてきた広く深い世界を知り、感じたことを十七音で表現してみます。

### 演じる …… 狂言

言葉に合わせて体を動かしてみる。昔の人が楽しんだ芸能を、体ごとまねてみることで楽しんでみましょう。

# 声に出す

「おもすび ころりん」(1年)

ことばのしらべ(2年)

「晴天」「海雀」「雪」(5年)

歌う日本列島(5年)

ちえの言葉、言葉のちえ(5年)

短歌・俳句の世界(6年)

歌う日本列島  
「歌う日本列島」は、各都道府県の代表歌を、その土地の風景や文化に合わせて歌うことで、日本の地理や文化を学ぶことができます。

ちえの言葉、言葉のちえ  
「ちえの言葉、言葉のちえ」は、言葉の成り立ちや意味を学ぶことで、言葉の力を伸ばすことができます。

短歌・俳句の世界  
「短歌・俳句の世界」は、自然の美しさを言葉で表現する短歌や俳句の世界を学ぶことができます。

# 作る

あつまれ、ふゆの ことば(1年)

ことばとことばでタタタタ(2年)

心でパチリ(4年)

ことばとことばでタタタタ  
「ことばとことばでタタタタ」は、ことばの音のつながりを楽しむことで、言葉の楽しさを学ぶことができます。

心でパチリ  
「心でパチリ」は、心で想像しながら、言葉の音で表現することで、言葉の力を伸ばすことができます。

春  
「春」は、季節の移り変わりを表現することで、言葉の力を伸ばすことができます。

心でパチリ  
「心でパチリ」は、心で想像しながら、言葉の音で表現することで、言葉の力を伸ばすことができます。

# 演じる

今も昔も(6年)

狂言 柿山伏／柿山伏について

狂言 柿山伏  
「狂言 柿山伏」は、狂言の面白さを学ぶことで、言葉の力を伸ばすことができます。

登場人物  
シテ 山伏  
アド 柿主

山伏 貝をも持たぬ山伏が、貝をも持たぬ山伏が、道々うそをふこうよ。(と歌う。)これは出羽の羽黒山より、いてたる、かけ出の山伏です。このたび大峯・葛城をしまい、(帰る)

※「柿山伏について」は、狂言師 山本東次郎氏による解説です。この解説は、昔の人のものの見方・考え方が今につながることを教えてくれます。

# 古典を楽しむ